

第83回日本産業衛生学会総会

5月26日（水曜日）～28日（金曜日）、福井市で開催されました。本講座からは、野見山哲生、塚原照臣、津田洋子、山本貴子、江口尚が参加しました。

当講座からそれぞれがポスター演題を1題ずつ発表し、野見山哲生はシンポジウム3の座長、労働衛生史研究会でシンポジスト、塚原照臣はシンポジウム8の座長、シンポジストを務めました。

5月26日水曜日、シンポジウム3「有機溶剤中毒と生物学的モニタリング研究の過去と現在、未来」（座長 信州大学 野見山哲生、佐賀大学 市場正良）が開催されました。過去の中毒事例から現在、今後の職場での問題点と今後の課題についてシンポジストから話があり、今後の実践、研究にとって示唆に富むシンポジウムでした。大変多くの方々が集まり、一番多いときでは立ち見ができる状態でした。本シンポジウム後の有機溶剤中毒研究会（代表世話人 野見山哲生）、生物学的モニタリング・バイオマーカー研究会（代表世話人 市場正良）の合同研究会では、今後両研究会の発展的な統合が認められ、秋の合同研究会の折り、更に議論をしていくこととなりました。

5月27日木曜日、シンポジウム8「大学における産業保健と環境保健」（座長 富山大学 稲寺教授、信州大学 塚原講師）も大変盛況で、大学における産業保健、環境保健の特色と企業のそれらとの違いが指摘されました。非常に活発に議論が交わされ、今後大学における産業保健等について議論していく場を作る必要性についても話が及びました。

